

特集 VOL.4

病院・高齢者施設の環境づくり

海外の高齢者施設

1.はじめに

「人生の最期まで自分らしく生きる」というテーマはどのような環境で最晩年を迎えるかで大きくその質が変わるように思います。

現代は高齢者といっても若々しく、多趣味で自分の時間をエンジョイする方が増えています。一人暮らしでも施設に入らず自宅で生活し最期を迎える人は今後ますます増えるのではないのでしょうか。しかし、高齢者施設に入るという選択もあります。集団生活のため入所すると往々にして今までの生活が制限され、日常生活を施設のスケジュールに合わせる必要が生じます。そんな中で最期まで自分らしく生きる場としての高齢者施設はどのようなものなのでしょうか。

アメリカ ダラスの高齢者施設「Harbor Chase」を見学しましたのでご紹介させて頂きながら考えてみたいと思います。

2.一番の楽しみである「食」の場を考える

高齢者施設での生活で一番の楽しみは「食」だといいます。

ダラスの高齢者施設「Harbor Chase」のレストランは圧巻でした。まるでホテルのダイニングの様なしつらえとサービスがありました。

ダイニングではテーブルセッティングがきちんとなされ、ここで食事をするとピンと背筋が伸びる感じがします。パジャマのまま背中を丸めてなんとなく食べるのではなく、食事を日常の最も大切な事とするというコンセプトを感じました。このようなレストランなら身支度を整えて行こうという気にもなります。少しお化粧を試してみたり、お洒落してみたり…。

そのような気持ちを持ち続けることは元気の素、環境がなせる業だと思います。そして食欲の無い人でも食べたくなるような演出は見事でした。厨房はガラス越しに料理している様子が良く見えます。ジュージューとお肉を焼く様子や、香りまで感じる事ができます。こうして五感が刺激されれば思わず食欲も出ますね。

高齢者施設 Harbor Chase USA



厨房はガラス張りで料理の風景が見え
シズル間を十分に演出している



背筋が伸びるダイニング
テーブルセッティングもしっかりと

病院・高齢者施設の環境づくり

3. 廊下やロビーの装飾

軽度認知症の患者さんのフロアでも、廊下やエレベーターホールに小物がたくさん置いてあるのには驚きました。書籍やキャンドル、花瓶、オブジェ…。

私は思わず施設のコンシェルジュの方に聞きました。

「こんなに小物が多くて危なくないのですか？」と。

日本では手の届く範囲になるべく物を置かないようにする傾向があります。認知症の方が小物を用いて怪我やトラブルになる事が多々あるからです。

コンシェルジュの返事は、

「いいえ危なくはありません。私たちは家のような環境を提供するというコンセプトなので、何も無いのは不自然です。」

家の様に過ごして欲しいという想いから、小物もあって当たり前。その徹底したマインドと同時にスタッフが目を配れるほど手厚く人員が揃っているのには感銘しました。



ロビーの装飾、認知症の方がいても
こんなに小物が多い



エレベーターホールの一角
アートと照明は至る所に

4. 自宅に居るような部屋

この「Harbor Chase」はアメリカの高齢者施設の中でもグレードの高い施設です。日本でもハイグレードの高齢者施設はたくさんあり、私も見学させて頂いておりますが、インテリアのつくり方を比較するとなぜか日本の施設は似たり寄ったりのイメージがあります。

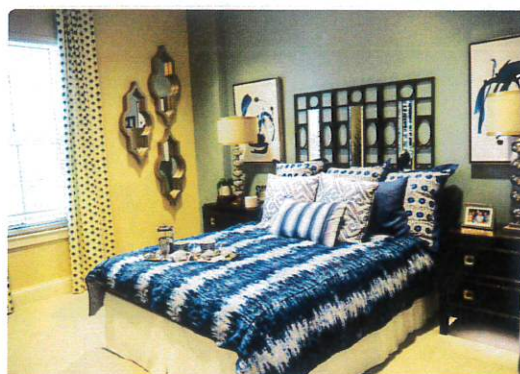
例えば、その方らしいインテリアや今までの暮らしの延長線上で大きく環境を変化させなくても良いようなしつらえ、安全性だけでなく美しいと感動してしまうお部屋（高齢者でなくても思わず住みたくなるような）にはまだ出会って無いように思います。次ページでは、「Harbor chase」のプライベート空間をご紹介します。写真はモデルルームですが、ブルーをテーマとしベッドもサイドテーブルも施設の家具のように冷たくなく、今まで暮らしていたような家の家具のスタイルを尊重しています。トイレやシャワールームも同じ色彩でコーディネートされ、シャワールームのカーテンにまでデザインに気を使われています。

個室内のリビング



ソファ、スタンド、鏡など
家でくつろぐインテリアそのままに

ベッドルーム



クッションやアート、スタンドに至るまで
コーディネートされた部屋

トイレとシャワールーム



シャワールームのカーテンも美しい柄手摺は
それぞれの障害に合わせて後付けする

軽度認知症の方にとって環境がガラリと変わると症状が進行すると言いますが、なるべく今までの家での生活のように過ごせること、美しい環境が心を癒してくれること。それは日本の施設でももっと取り入れたい要素ではないでしょうか。

5.美容室ではネイルやエステも

次ページでは、施設内にある美容室です。シャンプーしたり髪を整えたりすると清潔で気持ちよくそれだけで気持ちが変わりますね。鏡に映る自分の姿が髪ボウボウではなく、きちんとしていると気持ちも前向きになります。施設内に美容室がある所は日本にもあると思いますが、インテリアまで街のオシャレな美容室の様に気を使っている所はあまり無いように思います。

写真のように天井が高く、色彩もコーディネートされ、大きな鏡に映るキレイになっていく自分を見ることは元気が出る事でしょう。若き頃を思い出してワクワクする気持ちが沸いてくるかも知れません。ただ美容室があるというだけでなく、徹底してどんな体験をして頂きたいかを考えてインテリアを創ることも大切な要素です。

病院・高齢者施設の環境づくり



施設内にある美容室 壁紙 椅子 アート 照明器具とコーディネートされている

6. 運営会社のマインド

この施設には数多くのスタッフが働いています。

皆スペシャリストで利用者さんの事や家族との連絡などコーディネーターさんが行います。このようにプロの視点から利用者の日々を細かく観察し、どのような状況かを家族に連絡し お互いを繋ぐコーディネーターの存在は誠に大切です。

写真の右端、左端の方々はコーディネーターさん。白衣でなく、こんなカラフルなスタイル がユニフォーム。施設利用者にとっても面会の家族にとっても家のような環境を創り上げる…。

このマインドはハイグレードの施設だから出来る話と終わらせてしまわずに、日本の施設でも取り入れられる要素はあるはず。少し発想を変えみると時代に合う高齢者施設のサービスが生まれるはずです。



両サイドの方々がコーディネーターさん 色彩のあるファッションでお出むかえ

7. 日本の事例

アメリカに負けず日本にも豊かな最晩年を過ごす事をコンセプトとしている高齢者施設はあります。そのひとつが医療法人社団慶友会さんが運営する「青梅慶友病院」と「よみうりランド慶友病院」です。大塚宣夫会長は、親を安心して預けられる施設が必要だと自らの体験を基に看護、介護と医療の一体的提供の施設をつくられました。

病院・高齢者施設の環境づくり

入居さんが日常の楽しみを止めなくて良いという考えでサービスを提供されています。例えば食堂でお酒が飲めたり、夜眠れない患者さんには無理に寝させる事をせず、ホットミルクを飲んで頂きながら夜勤のナースがお話相手になるなど、通常では考えられないようなサービスを提供しています。

車椅子の方でも、寝たきりの方でも日中は洋服に着替えて過ごす。パジャマを着るのは夜だけ、と徹底しており、終日寝てしまうような事を避けて日常のリズムで生活するように心がけています。

女性の利用者さんが多い中で、いくつになってもおしゃれを楽しむ心を忘れない工夫も。

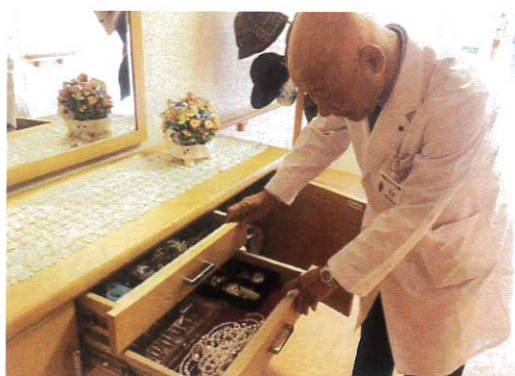
廊下には散歩に行く際に自由に被れる帽子や、選べるアクセサリーのコーナーもあり、入居さんへ大変喜ばれています。

これからの高齢者施設には団塊世代の方々が入ってきます。海外旅行に行き、フレンチやイタリアンなどグルメな時代を謳歌した方々・・・。

その方々が満足できる高齢者施設とはどのようなものか。インターネット通信も、趣味も諦めずに今まで通りの生活が送れる環境。ポイントは「自由度」と「時間の質」にあるかもしれません。



よみうりらんど慶友病院。
帽子は入居さんが散歩の時に好きなものをご自由に被れるように。と大塚会長。



これらのアクセサリーもご自由に装着して良い物です。と大塚会長。



戸倉 蓉子

【プロフィール】

株式会社ドムデザイン 代表取締役
慶応義塾大学病院にてナースとして勤務後、
病院の環境を変えたいと建築デザイナーに転身
看護師と一級建築士の資格を持つ建築デザイナー

【著書】

医療の場を整える環境デザイン (日本看護協会出版)